

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここはぐ		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 10日 ～ 2025年 12月 14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24 (回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2025年 12月 10日 ～ 2025年 12月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広い指導訓練室（ブレイルーム）と、個別・少人数で集中して取り組める集中訓練室（相談室）を備えており、活動内容や児童の特性に応じた環境設定が可能である。	活動内容や児童の状況に応じて部屋を使い分け、集団活動と個別支援の両立を図っている。刺激に敏感な児童には集中訓練室を活用し、落ちついて取り組めるよう配慮している。	空間構成や備品配置を工夫し、児童が自ら選択できる仕組みづくりを進めていく。
2	SST、運動療育（粗大・微細）、食育を三本柱としたカリキュラムを日々実施し、社会性・身体面・生活力の総合的な支援を行っている。	児童の発達段階や特性に合わせ、無理のない内容や方法を選択し、継続的に取り組めるよう工夫している。日常生活に結びつく内容を意識し、楽しみながら学べる支援を心がけている。	支援内容の振り返りや評価を行い、より効果的なプログラムとなるようスタッフ間で共有・検討を重ね、質の向上を図っていく。
3	買い物支援や調理活動、手作りおやつを多く取り入れ、食を通して生活力や社会性を育む支援を行っている。	買い物ではスタッフが付き添い、金銭のやり取りやルールを学ぶ機会を設けている。調理やおやつ作りでは、児童一人ひとりが役割を持ち、達成感や「できた！」という成功体験を積めるよう工夫している。	児童の発達段階に応じた役割設定や支援方法を検討し、日常生活により活かせる経験となるよう内容の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご利用希望者に対し、受け入れ体制が十分でない場合がありお断りすることがある。	定員や人員配置、送迎体制に限りがあり、希望曜日や時間帯が集中することで調整が困難となっている。	・利用状況の分析を行い、曜日や時間帯の調整を検討する。 ・スタッフ配置や支援体制の見直しを行い、受入れ枠拡大の可能性を検討する。 ・待機となる場合も丁寧な説明と情報提供を行い、保護者の不安軽減に務める。
2	保護者同志が交流や情報交換を行う機会が確保できていない。	日々の支援業務を優先する中で、保護者交流の場の企画・運営する体制が整っていなかった。	・今後はスタッフ主催のお祭り等の行事を企画し、親子で参加できる交流の場を設けることを検討していく。 ・保護者が気軽に参加できる雰囲気心をかけ、今後も交流機会の継続的な実施を検討する。
3	保護者支援の一環としてのペアレントトレーニングを十分に実施できていない。	専門的知識を有するスタッフの育成や、実施時間・場所の確保が課題となっている。	・スタッフ研修への参加や情報収集を進め、ペアレントトレーニングに関する理解を深める。 ・保護者面談や小規模な勉強会など、無理のない形で段階的な方法を検討する。